

国内の畜産物の需給動向

牛肉

8年5月の牛肉生産量、前年同月比4.8%減

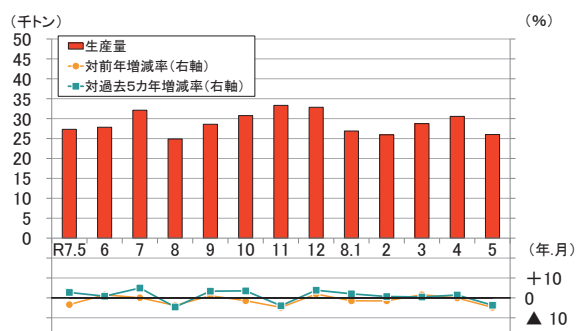
生産量

令和8年5月の牛肉生産量^(注1)は、2万6014トン（前年同月比4.8%減）と前年同月をやや下回った（図1）。品種別では、和牛は1万3734トン（同4.3%減）とやや、交雑種は7160トン（同2.6%減）とわずかに、乳用種は5084トン（同8.8%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較でも、3.7%減とやや下回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

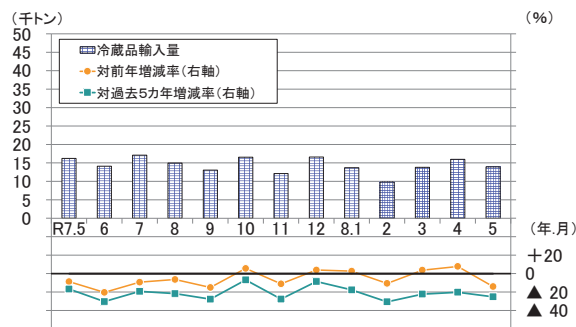
5月の輸入量について、現地価格の高止まりや為替相場の影響などがある中、冷蔵品では、主要輸入先である米国産の輸入量が増加

した一方、豪州産で前年のような通関のずれがなかったことなどから、1万3932トン（前年同月比14.1%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図2）。冷凍品では、引き続き米国産ショートプレート（バラ）の輸入量が増加した一方、豪州産では、冷蔵品と同様、前年のような通関のずれがなかったことに加え、加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が減少に転じたことなどから、2万9805トン（同7.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)でも、4万3779トン（同9.6%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は25.2%減と大幅に下回った一方、冷凍品は2.4%増とわずかに上回る結果となった。

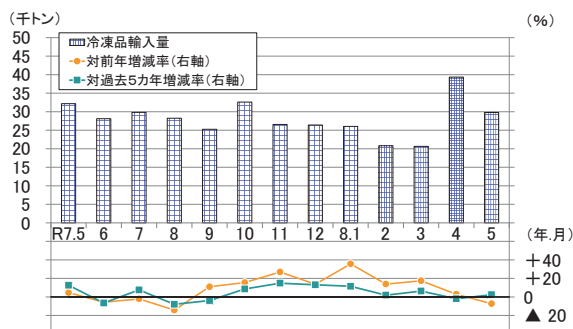
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

5月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注3）}は169グラム（前年同月比8.9%増）と前年同月をかなりの程度上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、5.5%減とやや下回る結果となった。

5月の外食産業全体の売上高は、大型連休の行楽需要が好調だったことや、土日数が2日多い曜日回りが底上げしたことにより、前年同月比9.8%増と前年同月をかなりの程度上回った。中旬を中心に比較的天候に恵まれたことや、各社とも各種施策で集客に努めたこともあり、連休明けの集客の落ち込みはおおむね例年並みで推移した（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、期間限定メニューの好評やキャンペーン、母の日向け商品の投入などが奏功したことから、同8.7%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、新メニューや連休のテイクアウト需要に合わせたキャンペーン

が好評であったことから、同15.3%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、連休の家族需要とキャンペーンによる集客が好調であったことから、同14.6%増と前年同月をかなり大きく上回った。

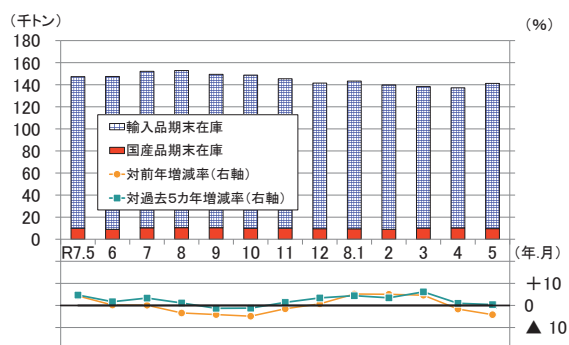
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、14万1217トン（前年同月比4.2%減）と前年同月をやや下回った（図4）。このうち、国産品は9622トン（同2.7%減）とわずかに、在庫の大半を占める輸入品は13万1595トン（同4.3%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

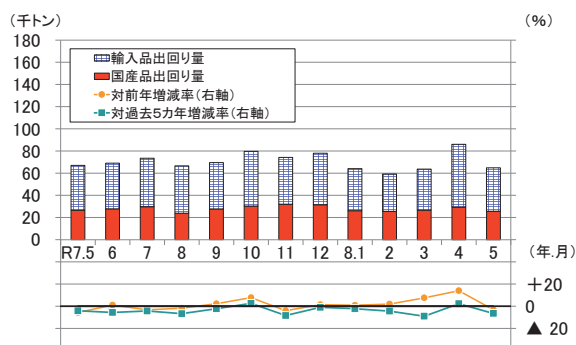
推定出回り量は、6万4835トン（同3.2%減）と前年同月をやや下回った（図5）。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

このうち、国産品は2万5657トン（同3.2%減）、輸入品は3万9178トン（同3.2%減）といずれも前年同月をやや下回った。

（畜産振興部）

豚 肉

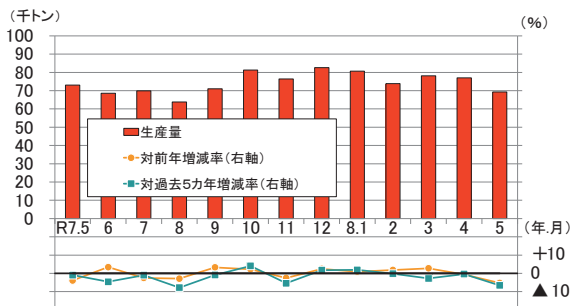
8年5月の豚肉生産量、前年同月比5.2%減

生産量

令和8年5月の豚肉生産量は、6万9296トン（前年同月比5.2%減）と前年同月をやや下回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較でも、6.5%減とかなりの程度下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移

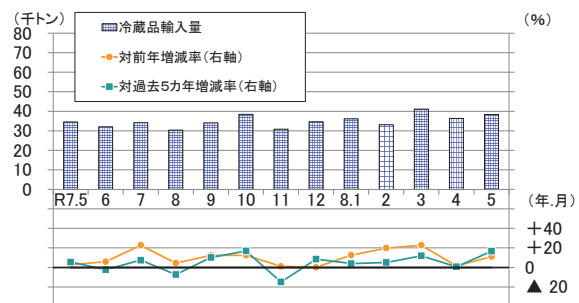


資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

ダ産などが増加したものの、全体では5万5190トン（同1.4%減）と前年同月をわずかに下回った（図3）。この結果、輸入量の合計（注2）では、9万3571トン（同3.4%増）と前年同月をやや上回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は16.7%増と大幅に、冷凍品は6.8%増とかなりの程度、いずれも上回る結果となった。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移

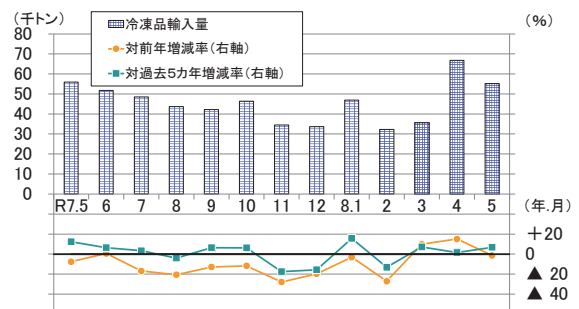


資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

5月の輸入量について、冷蔵品は、主要輸入先国であるカナダ産およびメキシコ産が増加し、3万8375トン（前年同月比11.2%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷凍品は、アフリカ豚熱発生による輸入一時停止措置（注1）の影響でスペイン産が減少した中、代替としてブラジル産、米国産、オラン

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

(注1) 農林水産省は、令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管および輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

(注2) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

家計消費量

5月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は、647グラム（前年同月比1.0%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、0.4%増とわずかに上回る結果となった。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

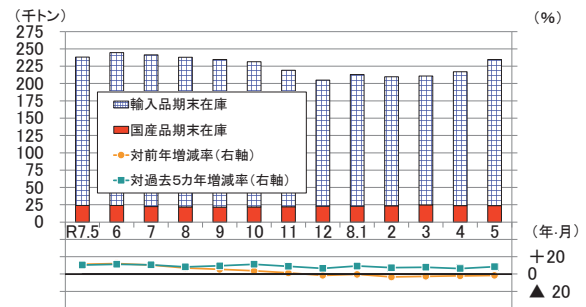
推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、23万4626トン（前年同月比1.5%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は2万3667トン（同1.8%減）、在庫の大半を占める輸入品は21万959トン（同1.5%減）と、ともに前年同月をわずかに下回った。

推定出回り量は、14万5089トン（同1.3%減）と前年同月をわずかに下回った

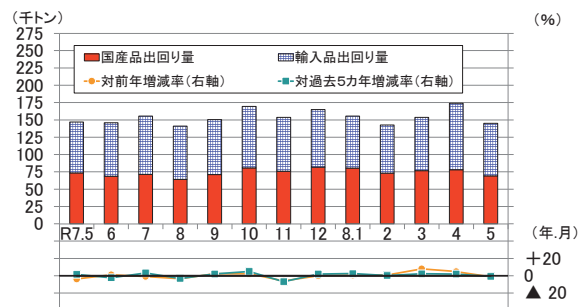
（図5）。このうち、国産品は6万9305トン（同5.6%減）と前年同月をやや下回った一方、輸入品は7万5784トン（同3.0%増）と前年同月をやや上回る結果となった。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

鶏 肉

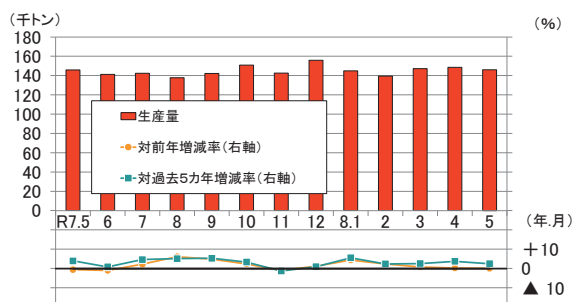
8年5月の鶏肉生産量、前年同月比0.1%増

生産量

令和8年5月の鶏肉生産量は、14万6012トン（前年同月比0.1%増）と前年同月並みとなった（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較でも、2.5%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



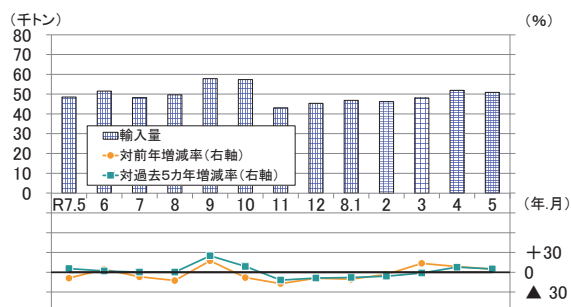
資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

輸入量

5月の輸入量は、主要輸入先のうちブラジル産が前年同月と比較して大幅に増加したことなどを受けて、5万911トン（前年同月比4.9%増）と前年同月をやや上回った（図2）。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較でも、5.1%増とやや上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家さん肉を含まない。

家計消費量

5月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、531グラム（前年同月比2.5%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との

比較は、1.0%増とわずかに上回る結果となった。

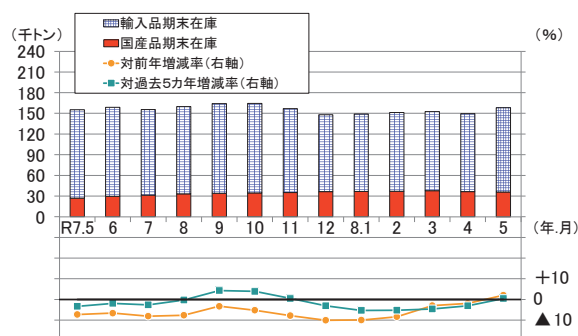
（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、15万8346トン（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図3）。このうち、輸入品は12万2234トン（同4.6%減）と前年同月をやや下回った。

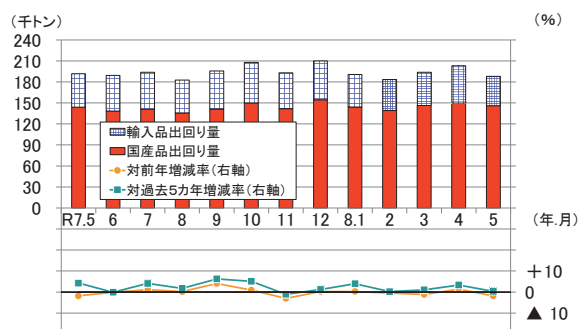
推定出回り量は、18万8173トン（同1.8%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は14万6249トン（同1.7%増）と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は4万1924トン（同12.3%減）とかなり大きく下回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部）

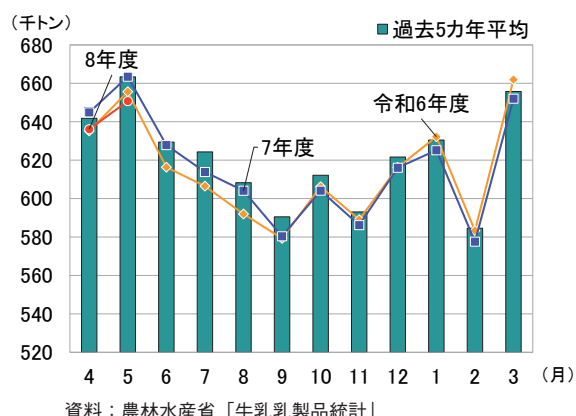
牛乳・乳製品

8年5月の生乳生産量は前年同月を1.9%下回る

全国の5月の生乳生産量、8カ月連続で前年割れ

令和8年5月の生乳生産量は、主に経産牛頭数の減少により65万748トン（前年同月比1.9%減）と、8カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別では、北海道が37万2474トン（同1.8%減）と5カ月連続で前年同月を下回り、都府県が27万8274トン（同2.0%減）と9カ月連続で下回った。

図1 生乳生産量の推移



5月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは32万3025トン（同1.8%減）と、10カ月連続で前年同月を下回った。このうち、業務用向けについても前年割れが継続しており、2万1626トン（同9.2%減）と12カ月連続で前年同月を下回った。

乳製品向けは32万4236トン（同2.0%減）と3カ月連続で前年同月を下回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万9907トン（同2.7%減）と7カ月連続で下回った一方で、チーズ向けは4万3826トン（同

5.6%増）と9カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは17万3906トン（同3.6%減）となり、3カ月連続で前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の5月の牛乳生産量、前年同月を10カ月連続で下回る

5月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、小売用の販売は堅調に推移したものの、業務用および学校給食用の減少により25万8936キロリットル（前年同月比1.5%減）と10カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳も値上げの影響による前年割れが継続しており、1万5428キロリットル（同11.1%減）となった。また、加工乳についても、1万965キロリットル（同4.2%減）と10カ月連続で前年同月を下回った。

はっ酵乳については大容量タイプが堅調に推移しているものの、9万1360キロリットル（同1.1%減）となった。

5月のバターの生産量、4カ月ぶりに前年同月を下回る

5月のバターの生産量は、生乳の仕向け量の減少から、7388トン（前年同月比0.2%減）と4カ月ぶりに前年同月を下回った（図2）。在庫量については、出回り量が前年同月を下回る中、5月末は3万8073トン（同22.2%増）と5カ月連続で積み増した（図3）。推定出回り量は、6029トン（同9.9%減）と

4カ月連続で前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ）。

図2 バターの生産量の推移

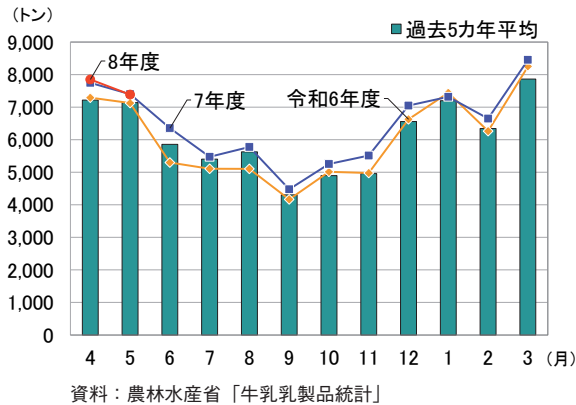
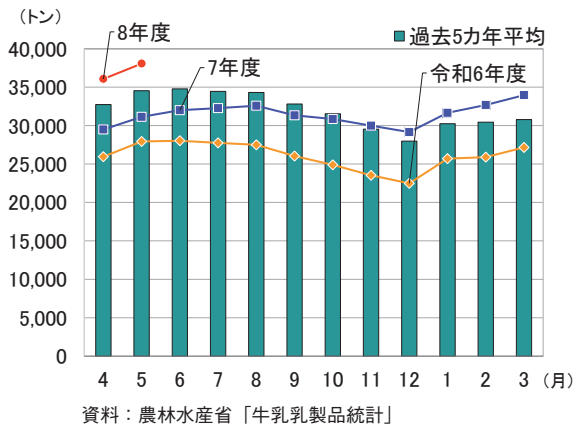


図3 バターの在庫量の推移



5月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比29.8%増

5月の脱脂粉乳の生産量は、生乳の仕向け量の減少から、1万5073トン（前年同月比2.9%減）と3カ月連続で前年同月を下回ったものの、需要量が供給量を下回って推移していることから、在庫量については、18カ月連続で前年同月を上回り、5月末は7万8679トン（同29.8%増）となった（図4、5）。推定出回り量は、9390トン（同13.7%減）と4カ月ぶりに前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ）。

図4 脱脂粉乳の生産量の推移

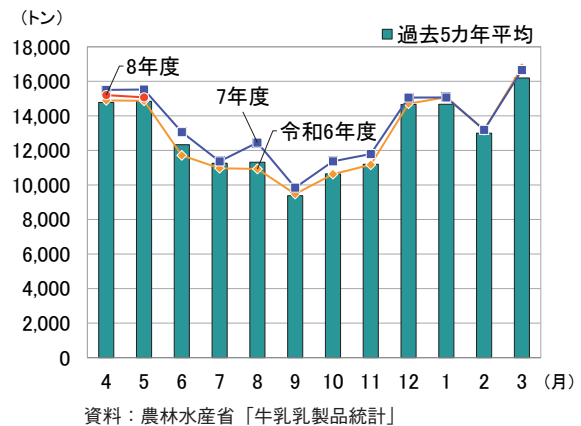
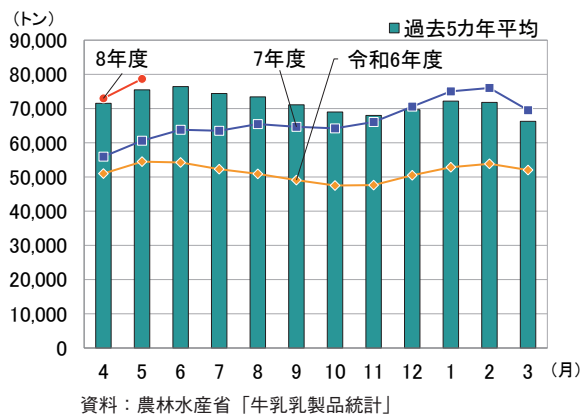


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



令和8年度の指定乳製品等の輸入枠数量は据え置き

農林水産省は令和8年6月5日、8年度の国家貿易による指定乳製品等の輸入枠数量の検証結果を発表した。これによると、令和8年度のバターの在庫は、飲用需要の減少もあって業務用を中心に年間を通して前年同月を上回って推移し、年度末には3万6000トン（前年同期比6.6%増）になると見込まれることから、8年度は、国際約束に基づく最低数量（生乳換算で13万7202トン^{（注）}）にとどめ、品目別内訳を据え置くこととした。当機構は、今回の検証結果を踏まえ、引き続きバターなどの輸入を適切に実施していく予定である。

(注) 品目別内訳については、脱脂粉乳：750トン以内、ホエイ：4,500トン以内、バターオイル：140トン以内、バター：8,000～約10,000トン。

(酪農乳業部)

鶏 卵

8 年 6 月の鶏卵卸売価格、前年同月比9.4%安

卸売価格

令和8年6月の鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）は、1キログラム当たり308円（前年同月差32円安、前年同月比9.4%安）と、前年同月の同価格をかなりの程度下回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同315円から4日には同310円、11日には同305円と計2回の下落があり、月間の下落幅は同10円となった。なお、過去5カ年の6月の平均卸売価格は272円であり、

それと比較すると、13.2%高とかなり大きく上回る結果となった。

供給面について、5月以降国内での高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の新たな発生は確認されておらず、生産状況は比較的安定した。需要面について、加工筋では夏場の冷やし麺向けの集荷が始まり、需要の高まりが見られた。

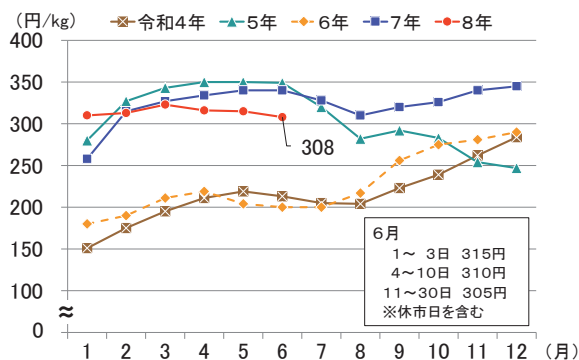
家計消費量

5月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、922グラム（前年同月比0.2%増）と前年同月並みとなった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、0.4%減とわずかに下回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

図 鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」

注：消費税を含まない。

(畜産振興部)